3－4　救　助

1　救助体制

消防の救助業務は、昭和23年自治体消防発足当初、一般建物火災の人命救助を主たる任務として活動していましたが、昭和30年代の後半から産業経済の進展に伴い、各種災害の様相が複雑多様化し、人命を損なう事故が続発してきたため、東京消防庁では、より高度な救助技術と資器材を装備した特別救助隊を昭和46年から順次整備するとともに、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえて、平成8年には震災時や大規模な特異災害に対応する消防救助機動部隊（ハイパーレスキュー）、平成28年には航空消防専門部隊として航空消防救助機動部隊（エアハイパーレスキュー）を発足させました。

一方、国政レベルでは、昭和61年に消防法及び消防組織法の一部改正による救助隊の法制化、昭和62年には国際緊急援助隊の派遣に関する法律の施行、平成7年には阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ国内の消防応援に関する消防組織法の一部改正、緊急消防援助隊要綱の制定、平成15年には消防組織法の一部改正による緊急消防援助隊の法制化などにより、国内及び海外における消防活動の応援体制が順次、整備されてきました。

東京消防庁では救助隊、特別救助隊及び消防救助機動部隊の他、山岳救助隊、水難救助隊、航空救助員等の充実を図り、陸、海、空が一体となった救助体制を確立して救助活動を推進しています。

平成16年7月新潟・福島の豪雨災害及び同年10月の新潟県中越地震、平成20年6月には、岩手・宮城内陸地震、平成23年3月には、東北地方太平洋沖地震、さらに平成26年9月には御嶽山噴火災害、さらに平成27年9月には関東・東北豪雨災害にそれぞれ消防救助機動部隊を中心とした部隊を派遣し、人命救助及び消火活動を行いました。

また、海外でも大規模な自然災害等が発生した際には、被災国の要請に基づき国際消防救助隊を派遣し、高度な救助技術等を駆使して国際貢献を果たしています。

東京消防庁において過去19回の派遣実績があり、最近では平成21年10月に発生したインドネシア・スマトラ島沖地震、平成23年2月に発生したニュージーランド南島地震、さらに平成27年4月に発生したネパール地震にも救助チームを派遣し、献身的な救助活動を行っています。

2　救助隊の現況

火災をはじめ一般的な災害における救助事象に対しては、直近の消防署から救助隊が出場し救助活動を行っています。一方、複雑な救助事象には、専門の教育を受けた特別救助隊が、さまざまな救助資器材を活用して対処し、さらに大地震をはじめ建物の倒壊や土砂崩れなどの大規模な災害には、大型重機等を備えた消防救助機動部隊が出場して都民の尊い生命の救護にあたります。

また、東京湾をはじめ都内の河川等における水難事故に対しては水難救助隊が、山岳事故に対しては山岳救助隊が、それぞれ航空隊と連携を図りながら人命救助活動を行っています。

3　安全管理体制

災害現場における消防活動は、災害の複雑多様化により、危険性や困難性を増し、消防活動部隊の安全確保の徹底がますます重要になってきています。

都民の生命を守るためには、消防隊は常に安全かつ効率的に消防活動を行わなければなりません。このことから、安全器具、保護器具の改良、安全管理隊の活動により災害現場における消防隊員の安全管理体制の充実強化を積極的に推進しています。

第 3－5 表　特別救助隊の現況　（平成 28 年 4 月 1 日現在）

方面	配置消防署	救助隊名
第一方面	麹町	永田町特別救助隊
	芝	芝特別救助隊
第二方面	蒲田	空港特別救助隊
第三方面	目黒	目黒特別救助隊
	世田谷	世田谷特別救助隊
第四方面	新宿	新宿特別救助隊
	杉並	杉並特別救助隊
第五方面	豊島	豊島特別救助隊
第六方面	足立	足立特別救助隊
	上野	上野特別救助隊
第七方面	城東	城東特別救助隊
	本田	本田特別救助隊
	江戸川	江戸川特別救助隊
	深川	深川特別救助隊
第八方面	武蔵野	武蔵野特別救助隊
	東久留米	東久留米特別救助隊
	府中	府中特別救助隊
第九方面	八王子	八王子特別救助隊
	町田	町田特別救助隊
	青梅	青梅特別救助隊
	多摩	多摩特別救助隊
第十方面	板橋	板橋特別救助隊
	練馬	練馬特別救助隊
	石神井	石神井特別救助隊

第 3－6 表　航空消防救助機動部隊の現況　（平成 28 年 4 月 1 日現在）

救助部隊名	
装備部	航空消防救助機動部隊

第 3－7 表　消防救助機動部隊の現況　（平成 28 年 4 月 1 日現在）

方面	救助部隊名
第二方面	第二消防方面本部消防救助機動部隊
第三方面	第三消防方面本部消防救助機動部隊
第六方面	第六消防方面本部消防救助機動部隊
第八方面	第八消防方面本部消防救助機動部隊
第九方面	第九消防方面本部消防救助機動部隊

第 3－8 表　水難救助隊の現況　（平成 28 年 4 月 1 日現在）

方面	配置消防署	救助隊名
第一方面	日本橋	浜町水難救助隊
	臨港	臨港水難救助隊
第二方面	大森	大森水難救助隊
第六方面	足立	綾瀬水難救助隊
第七方面	小岩	小岩水難救助隊
第八方面	調布	調布水難救助隊

第 3－9 表　山岳救助隊の現況　（平成 28 年 4 月 1 日現在）

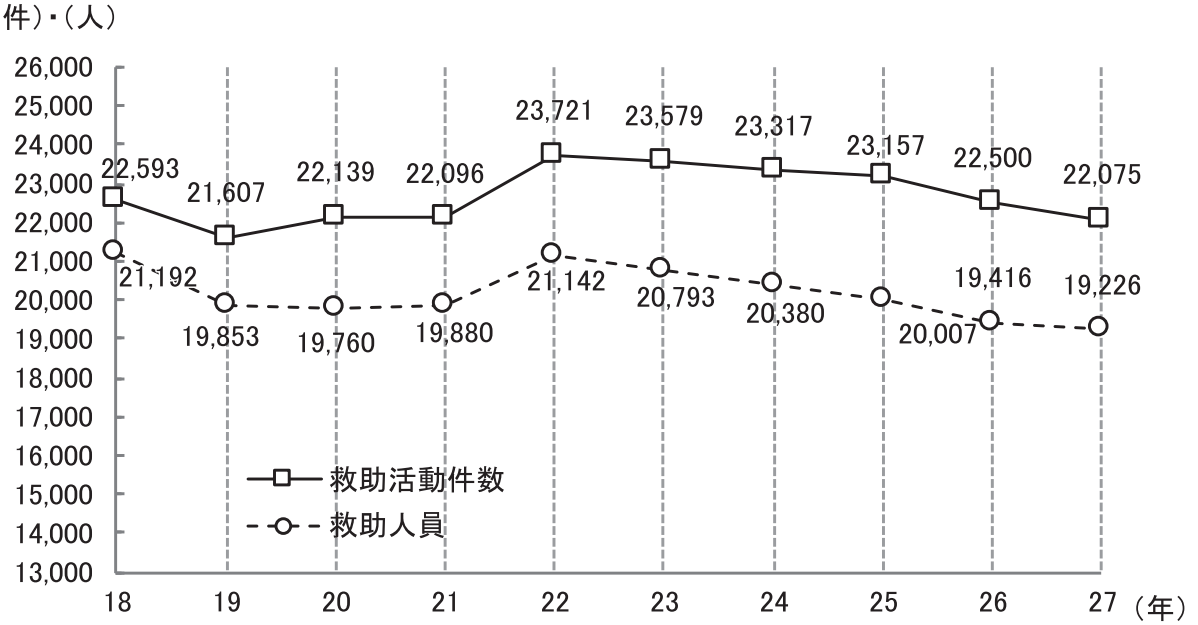
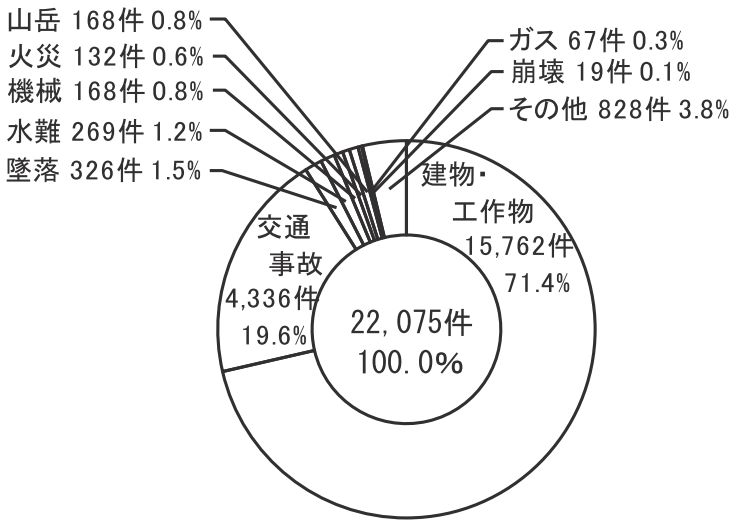
方面	配置消防署	救助隊名
第九方面	八王子	八王子山岳救助隊
	青梅	青梅山岳救助隊
	秋川	秋川山岳救助隊
	奥多摩	奥多摩山岳救助隊

4　救助活動

平成 27 年中の救助活動状況は、救助件数が 22,075 件で前年と比べ 425 件減少しています。

種別ごとでは、「水難」、「機械」、「建物・工作物」、「墜落」、「山岳」及び「その他」が増加しており、「火災」、「交通事故」、「ガス」及び「電気」が前年に比べ減少しています。

第3－5図　救助活動件数・救助人員の推移



第3－6図　平成27年中の救助活動件数